

---

# 雷様道中記

カツオ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雷様道中記

### 【Nコード】

N6065N

### 【作者名】

カツオ

### 【あらすじ】

普通の社会人がワンピース世界に憑依転生。  
転生先は、無敵の雷様。

超オリジナル展開です

## 第一話（前書き）

完全に作者の妄想爆発作品であり、原作にない部分をオリジナルで埋めております、また一部原作の設定と反している部分もあるため苦手な方はお気をつけください。

## 第一話

社会人になって半年と少し、やっと仕事にも職場の人たちにも慣れてきた俺は、週明け 月曜からの仕事に備えていつもより少し早く寝て…

朝起きたと思ったら、気づけば赤ん坊として抱き上げられていた。

状況がわからないまま周囲を見ると部屋には10人ほどの人がこちらを見ていた、ほとんどがジジイばかりで全員背中に羽の飾りをつけている。中央に偉そうなジジイがいて、なにか感じの悪い目をしていた。

父親くらいの年の男も何人かいるが、後ろのほうにいて手に槍を持っている上に上半身が裸だ。

多分雰囲気的に偉そうなジジイの護衛とかそんなんだろうか？  
父親ではないだろうし、こんな格好の奴が父親だったらイヤだ。

「無事生まれたようだな、それでは一年間しっかりと育てるのだぞ」  
偉そうなジジイが俺に言ってくる、いや俺を抱いている母親に言っているようだ。

「わかりました。この子をエネルと名づけ、責任をもって育てさせていただきます。」

去っていくジジイ達、部屋に二人になった俺と母親。

「エネル　しっかり育って立派な神様になるのよ」

そう言っで微笑んでくる母親

…エネル？　…神？？

もしかしてワンピース！？？

俺が？？？

## 第一話（後書き）

処女作品です。一話ことが短くなってしまいかもしれません。

## 第二話

生まれてから一ヶ月、飯を運んでくるおばさん以外ほぼ母親と二人きりの生活だったため、それほど状況は変わっていない。

情報も母親からしかないのだが、ここが俺の思っている通りワンピースの世界だとすれば色々とわかってくる。

ここがワンピースの世界かどうかは断言できないが、そうだとすれば説明のつくことが多い。ジジイたちの羽や妙な格好、神という言葉もだ。

母親の名はイリカというらしい、父親は事情があって会えないが母いわく「強い人だから、貴方もきつと強くなれる」とのことだった。彼女は多分に親馬鹿の気があるようだ。

次に俺のこと、俺の名前はエネルギー。これは原作の空島編にでてきた神エネルギーのことだろう、赤ん坊のため顔では判別が難しいが特徴的な福耳があるためほぼ間違いないだろう。

まだゴロゴロの実食は食べていないため普通の体だが、原作登場時には最強レベルの強さだったはずだ。

そして俺の置かれている状況だが、一歳になればあのジジイたちが

俺を連れにきて神となるための修行を行っそうだ。

それまでは赤ん坊のみでできることもないため母親とのんびり暮らすことにしよう。

原作介入とかについては今の所考えていない。ここが本当に俺の知ってるワンピースの世界かどうか分からないからだ。

そんなことを日々考えながら赤ん坊ライフを満喫していたらあっという間に一年が過ぎた。

やっと一人で立てるようになり歩けるかどうかまで成長した俺は、迎えに来たジジイ達の一人に連れられ母親とともに大きな部屋の中にいた。

「大任ご苦労だったな、イリカよ これよりエネルのことは我々に任せるがよい。」

「必ずやエネルを神にして見せよう」

「エネルのことをよろしくお願いします」

そう言って頭を下げジジイに礼をすると俺のほうを見て「がんばるのよ」と少し涙目になりながら彼女は部屋から出て行った。

「さてでは早速始めるとしよう」

ジジイがそう言っると大きな黒い箱が運ばれてきた。

「お前にはまだ理解できんだろうが、この箱は青海の鉄というモノ  
でできており外側に音貝<sup>トーンダイアル</sup>を貼り付けてある。  
従って通常の音は中には入らず、箱の中は外から隔離された世界と  
なる」

「エネルよ、お前は今からこの中で生活するのだ、聴く力、心網<sup>マントラ</sup>  
目覚めるまで。」

ジジイの言葉とともに俺は箱の中に入れられ蓋が閉じられる。

箱の中は三メートル四方ほどもあり、一歳の俺が立ち上がって歩き  
まわれるほど広かった。

端<sup>ダイアル</sup>に貝が置いてありそれから淡い光が漏れ、箱の中を照らしていた。

さてどうするか？

ジジイの言葉通り中はとても静かで外の音を拾おうと思ったら心網<sup>マントラ</sup>  
を使うしかないだろう

心網<sup>マントラ</sup>は原作では覇気と同じものとされていて、できると信じればで  
きるというように言われていた。

そして俺は原作でエネルが使っているのを知っている。

だから今外からザワザワと聞こえているような声も心網<sup>マントラ</sup>で聴いてい  
るのだろう。

練習もせずにできるようになって申し訳ないが、使える旨を伝え外  
に出ようとしたが、外から気になる声が聞こえてきた。

（こちらのエネルギーはどのくらいで心網<sup>マントラ</sup>を覚えられるかな……ほかのエネルギーの中には一週間で習得した者もいるというし……）

他のエネルギー？…

どういうことだろうか？

幸い箱の外にいる連中はまさか俺がすでに心網<sup>マントラ</sup>を使えるとは思っていない、それ以前に一歳の子供に意味がわかるとは思っていないように考えが駄々漏れだった。

俺は先ほどの「他のエネルギー」の真意を探るべく、しばらくこの箱の中にいることにした。

## 第二話（後書き）

文章書くのはムズイ…

### 第三話

箱に入って一ヶ月、中から集められる情報にも限りが見え始め、また、俺も心網<sup>マントラ</sup>を応用して表層以上の考えを読み取られない程度には扱いに慣れたので、飯の時に心網<sup>マントラ</sup>が使えるようになったことを伝え、外へと出た。

ジジイ達の一人が聞いてくる。

「本当に心網<sup>マントラ</sup>使えるようになったのか確認する」

言葉とともに護衛の一人が近づいてきて俺に触れる

「間違いありません、確かに心網<sup>マントラ</sup>に覚醒しています。」

男の報告を聞き満足そうにうなづくジジイ。

「それでは、次の段階へと進む。里親は決まっておるな？」

「ウルシュラ大神官さまの予定です」

ジジイの一人が答える、どうやらジジイ達の間でも上下関係があるらしい。

あと俺をほったらかしにして進められてる話によると、俺はこれから里親に引き取られて新しい修練をするらしい。

他のエネルギーたちと同様に…

そう、俺が箱の中から集めた情報によると他にもエネルギーと名づけられた子供がおり、その子たちは、別の場所で俺と同じように修練をしているらしい。

それ以上詳しい話はわからなかったが俺はエネルギーの中で七人目の子供であり、予定では俺で最後らしい。

考えてる間にジジイ達の話は終わったらしく俺は外に連れ出される。部屋を出てさらに建物の外に出る、考えてみれば生まれ変わってから外へ出るのは初めてだった。

そして外の景色…雲…雲々。

周り中が巨大な雲でその上に建物が建っている不思議な光景に俺は今更ながら、ここが空島だということを認識する。タイアル貝は今までも何度か見たがこの景色は圧巻だった。

キョロキョロと周りを見渡しているうちに、一行は大きな屋敷に到着した。

屋敷の門の前には家人と思しき人たちが整列しており、その中から一人の巨体の男が近づいてくる。

首から巨大な数珠をぶら下げた神官というより僧侶のような格好の男。

男はそのままジジイに挨拶をするとこちらに近づいてきた。

「君がエネルかい、私はウルシユラという、これからよろしく頼むよ」

言葉こそ一歳児にするとは思えない丁寧な挨拶だったが、その目はひどく濁りきっていた。

### 第三話（後書き）

次でちょっと時間飛びます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6065n/>

---

雷様道中記

2010年10月8日23時11分発行